

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	虹のまち福祉会	代表者	星野 智	法人・事業所の特徴	当法人は複数の診療所と介護事業を展開している医療生活協同組合グループの一員です。当事業所はH19年11月に開設しR7年11月にながおか医療生活協同組合から虹のまち福祉会へ事業譲渡をした小規模多機能型居宅介護事業所です。同一の敷地内に介護付有料老人ホームと特別養護老人ホームが併設されています。また協力医療機関である、ながおか生協診療所や隣接の事業所と密に連携を図って、ご利用者が安心して暮らせるように支援をしています。
事業所名	プラット高町	管理者	清水 昭子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	2人	1人	1人	5人	0人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッフ自己評価や事業所自己評価に対する理解を深めるための事前学習会を実施する。 ●各自で個人目標を立て、年1回管理者と目標の達成度等について話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価、事業所自己評価についての事前学習は部署会議にて学習会を実施した。 ●個人の目標を立て研修の参加、スキルの取得に努めた。人員不足による研修の不参加もあったが個々でできる学習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●改善計画はもう少し具体的（どのような内容をどのように実施するか等）だと次回評価しやすくなるのではないかと思います。 ⇒来年度の改善計画を作成する時はどのような内容をどのように実施するかを明確にしていきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッフ自己評価、事業所自己評価についての理解深め、日々の業務に落とし込む為に1～9までの項目の内容の目的、意義を事前学習から学ぶ。 ●今後のキャリア形成をするために自身が考える将来像、会社が求める将来像のすり合わせをして単年、複数年単位の目標の設定をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●気軽に立ち寄れるような雰囲気を作るためにご利用者様と一緒に玄関周りに花を植える活動に取り組む。 ●居心地の良い場所になるようホール内に月ごとの壁画作りをし、明るく楽しい場所作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご利用者様と一緒に壁画作成することができた。 ●本事業所だけでなく事業群全体で花、野菜を植えて季節感を楽しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問すると花がありますし、壁画を見ることができました。ご利用者様も季節を感じる事ができたと思います。 ●使用者の方がほとんど快適に過ごしているように感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご利用者様を中心とした行事・壁画作成をする。 ●ご利用者様の希望に合わせて室温や席の位置の管理、ブランケット等の施設品の貸し出しを行い、快適に過ごしていただけるよう努める。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ●行事やイベントの参加を継続する。 ●玄関だけでなく、わいが家にも広報紙等の掲示をし、より多くの方に事業所知っていただけるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年4回、回覧板で地域の方に向けてプラット高町の情報を発信することができた。 ●子ども食堂、コミュセンの行事への出展など地域との関わりを継続して行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体的にあまりお付き合いが無い為わかりません。 ●家族、ご利用者様がサービスに満足されている様子がよくわかりました。 ●利用者・家族のアンケートからも満足度の高さがわかります。 ●高町たよりが年4回、回覧板でまわったのは、具体的な情報発信としてとてもよかったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き子ども食堂や地域の行事に参加、広報誌の発行を行う。 ●小規模多機能型居宅介護事業所の特性、仕組みを知っていただけるような広報を実施する。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●担当職員がご利用様のやってみ、行ってみたいなどの興味がある事を引き出し、それを実現できるよう地域のイベントなどを情報収集し、外出の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご利用様の体調面に寄り添い沿いながら個別外出(買い物)を実施することができた。全員の希望を全て実現することはできなかったが、新しいニーズやその人の強みを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご利用者の「～したい」を実現した後のご本人の反応等差支えない範囲で教えてほしいです。 ⇒ご利用者様の希望から外出先を決め、実施をしました。参加者からは「初めて来たけど楽しかった」「連れてきてもらってよかった」といった声や近所の方へのお土産を楽しそうに購入する様子がみられました。 ●春のお花見やドライブの写真を拝見して楽しそうです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者様の現在の生活、過去の生活を日々のコミュニケーションから情報を集め、今後の生活に生かせるケアを職員間で検討していく。 ●「～したい」「～してみたい」等のポジティブな意見だけでなくネガティブな発言の中から新しいニーズを探し出す。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運営会議でいただいた意見等を部署会議で周知していく。 ●できる限り多くの職員が会議に参加し、事業所運営や地域の中での課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の事例検討について実施する機会が少なく運営推進会議の場を有効活用することができなかった。地域の中での課題の把握が困難であったことも今後の課題と言える。 ●運営推進会議に可能な範囲で現場職員の参加を試みたが人員不足により実施ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども食堂とはどのような関わりをされていますか？ ⇒子ども食堂の実施に職員が直接関わることは無いです。公民館以外の場所で子ども食堂が開かれることが増えたことや職員の休憩時間の関係(12時休憩の職員しか参加できない)もあり、現在子ども食堂への参加はあまりできていません。今後は可能な範囲で職員の休憩時間の調整をして参加をできればと考えています。 ●事例の紹介、検討を地域の方と行うことで、事業所とは違った視点で対応策等意見が出て参考になることも多いと思います。地域ごとでの困りごとや課題等、共有することで事業所の役割やできることが明確になるかもしれません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本施設で検討、実施した事例について地域の方から意見を伺い今後の支援に活かす仕組みを形成する。また、運営推進会議で出た課題について部署会議で課題の検討を行う。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議出席の委員の皆様にも訓練についての案内を行い、参加・見学をしていただける取り組みを実施する。 ●町内会が実施する訓練にAEDや車椅子の講習会で講師を務め地域一体となって防災の備えを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練について参加をしてみたいとの声を多く頂いた一方で、訓練の実施についての周知がうまくできていなかった。 ●前年に引き続き町内会で行われる防災訓練の場に参加をすることができた。福祉の専門職としてAEDや車椅子の使用方法を伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練は是非参加したいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議時に各訓練についての決まっている案内を引き続き行うとともに、実施日、時間等決まった内容をメールやファックス等で再度案内を行う。 ●引き続き町内会が実施する防災、AEDの取り組みに参加をして地域に根付く施設としての役割を果たす。